

明日への扉

Door to Tomorrow

永遠の輝きを夢見て、石を削る。

甲州水晶貴石細工職人

藤森 信行 氏

山梨県甲府市に江戸時代から伝わる甲州水晶貴石細工。水晶をはじめとする貴石に繊細な彫刻を施し、さまざまな置物や器、くしなどに仕上げる芸術品だ。

藤森信行さんは創業約二百年の老舗で、伝統の継承に勤しむ職人。米国で過ごした高校時代に陶芸に興味を持ち、日本の伝統工芸について調べる中で甲州水

晶貴石細工と出会った。

きっかけは？

藤森「初めて見た時、細工がきれいだったので、石とは思えませんでした。どうやって細工したのか全く想像がつかなかったんです。そのうち自分でつくってみたくな

り、この世界に飛び込みました」

美しい細工に欠かせないのが、砂。水晶はわずかな衝撃で割れるため、常に細心の注意を払いながら、砂をかけ流し研磨機できめ細かに削る。場合によっては水晶が砂で覆われて見えなくなり、手先の感覚だけが頼りになることもある。それはまさに、手を隠された状態で字を書くようなものだという。

粗い粒から細かい粒へと砂を幾つも使い分け、最終的な形に仕上げる。例えば人をモチーフとした置物の場合、その手の大きさが1cmに満たなくても、指先の丸みや関節の質感にまでこだわらる。

今後の抱負は？

藤森「先人の作品を見て自分が感動するのと同じように、後世の人の心を動かすような作品をつくりたいですね。現状に甘んじず、もっと多くのことを学びながら精進していきたいと思っています」

並大抵の努力では、偉大なる先人に迫ることはできないだろう。悠久の時を超えて輝き続ける、そんな作品を夢見て、これからも果てしない道を進む。明日への扉を開け、また一歩、夢に近づく。

※2014年8月取材。掲載内容は取材当時のものです。



Nobuyuki Fujimori

1978年神奈川県生まれ。15歳の時、父親の仕事の関係で米国に移住。25歳で単身帰国し、江戸時代後期から続く老舗「土屋華章製作所」の門を叩き、現在に至る。

甲州水晶貴石細工

(こうしゅうすいしょうきせきざいこう)

水晶や瑪瑙、翡翠などの貴石に繊細な彫刻と研磨を施し製造される、国指定の伝統的工芸品。平安時代に甲府市で水晶の原石が発見されたことが起源とされ、江戸時代に現在のよう細工となり、明治時代に発展した。



映像ドキュメンタリー
「明日への扉」を
ぜひご覧ください。

WebやTVなどで
お楽しみいただけます。

Web版

パソコンやタブレットでもご覧になれます。今回ご紹介した方を含め、他にも多数の若者たちをご紹介しています。

アットホーム明日への扉

TV番組

ディスカバリーチャンネル(CS)
冠番組「アットホーム presents 明日への扉」放映中
毎週金曜日 22:53~23:00

ビジョン

ANA国際線「SKY CHANNEL」にて放映中



最新号のご案内

好評公開中

No.088

鴨川萬祝染職人
鈴木 理規 氏
(千葉県)

